



高田地区キャラクター
「たかたん」

高田町内会だより

第 18 号
発行日：平成30年2月1日
発行者：高田町内会
会長 宮田 寿雄

30年・元旦の誓い



高田町内会会長
宮田 寿雄

皆様明けましておめでとうございます。
ご家族お揃いで良い年を迎えられた事とお慶び申し上げます。
昨年は高田町内会創立70周年記念行事開催に絶大なるご支援とご協力を賜り誠に有り難うございました。心より御礼を申し上げます。
又、かねてから懸案の「町内会規約」の改正に関しましては2月中旬臨時総会を予定し、ご審議を頂く段階まで進みました。
年度末までの3ヶ月間で、29年度の締めくくりと30年度の準備をしっかりとしたいと思います。
私事ではございますが、昭和21年戌年生まれで今年は6回目の年男です。元旦の高田天満宮初詣の後、境内より神々しい富士山を見て新年の誓いを立てました。
地域の力を結集し”魅力的な住み良い町“を作ります。
今年も皆様方のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

70周年行事を振り返って

多くの記念行事を行いました。どのような行事を行ったかまとめてみました。

”「高田音頭」”の復活と子どもの参加



「高田よいとこ」で始まる高田音頭は、昭和48年高田小学校PTAが企画し、地域の人や学校の協力を得てできました。盆踊り大会や運動会で踊られました。

いつの時からか盆踊り大会では、一般的な曲だけになり「高田音頭」は忘れられてしまったようです。

今回復活に取り組みました。幸い学校の協力をいただき、休み時間子どもたちが何回も練習を行い覚えしました。

当日のびやかに踊る子どもの姿が、参加者の注目の的でした。今までにない情景でしたので、会場の人達が地域の一体感を感じられたかと思いました。

これからも地域の良さを歌いこんだ歌詞を味わい、たくさんの方が踊りの輪に加わり、夏の夜のひとときを楽しく過ごせる”盆踊り大会”にしたいものです。

町内会はどんなことをしているの？

創立70周年記念誌 活動の記録



平成29年11月
横浜市港北区高田町内会

— 記念誌の発行 —
町内会が行っている活動を中心にまとめました。
資源ゴミ回収曜日の変更をしたことが、最近の取り組み結果です。
清掃活動、防災訓練や講演会等に進んでご参加下さい。

アジサイの植樹

地元の専門家のご指導をいただき、9月に高田西公園入口右にアジサイを植えました。まだ小さいですが、いつ咲くか楽しみです。
高田第四公園にも記念として植えました。



高田西公園

研修所に近い“3区たつみ台住宅自治会”で行っています「華の会」について、ご紹介させていただきます。



お話玉手箱、記憶力テスト

この会は、「自治会内のご近所同士で楽しくおしゃべりができる会を」という自治会員の発案で 2017 年4月より始まりました。

日常生活に華を添えようと「華の会」と名付けられ、月一回二時間程、宮田会長のご理解を頂き、研修所をお借りして和気あいあいと開催しております。

当初は楽しくおしゃべりができればと思っておりましたが、朗読の先生や元アナウンサーの方をお迎えして、朗読、輪読、などなど、楽しい記憶力テスト等を行っています。

時には朗読内容の背景の歴史等も勉強することもあります。又、クリスマス会では、参加者それぞれが、お互いの特技、提案を活かし、生徒になったり、先生になったりして踊りや体操で体を動かし、合唱もしました。



朗読「高瀬舟」

型にはまることなく、皆さんがまた来たい、楽しみだと思える会になればと思います。

当初の参加は、たつみ台住宅自治会だけでしたが、少しずつ近隣の皆さんにも広がっています。

皆さんのほっとできる憩いの場所として、広がっていったら良いなと思います。 小岩純一 町内会理事



柔軟体操

「年末たすけあい募金」1,011,440 円！

10月に取り組み、会員の皆さんのご協力により、目安額を上回る募金額となりました。

ありがとうございました。

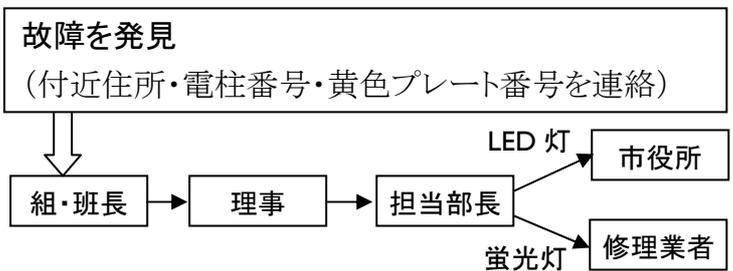
この、募金の振り分け先は、区社協へ目安額の3分の1、残りの目安額の3分の2と目安額超過額の合計は地区社協となっています。

なお、高田町内会で年間取り扱う募金は、

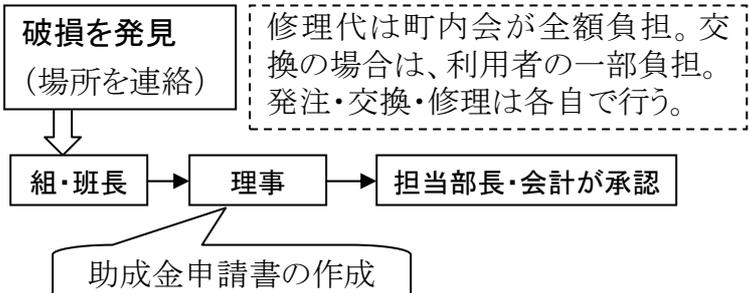
- ①日本赤十字社募金、②赤い羽根共同募金、③年末たすけあい募金の3件です。①と②は町内会の世帯数(3380世帯)に応じた額(目安額)を年度予算から拠出しています。③について今後も任意の募金を続けるか、または①②と同様、年度予算から拠出するか話し合っています。

防犯灯とカラスよけネットボックスの不具合を発見したら

○防犯灯の故障(費用は市または町内会が負担)



○ネットボックスの破損(長円寺・白坂台住宅自治会を除く)



10Kgの炊き出しや簡易トイレ、段ボールベットを体験

防災・減災の取り組み

高田地区は高田中学校と高田東小学校の2ヶ所防災拠点があります。それぞれの防災拠点は年2回皆様に参加を呼びかけ、防災避難訓練を行いました。また町内会は10月の全体常会で応急手当訓練を行っていました。災害はいつ起こるかわかりません。いざというとき自分の身は自分で守る備えと、落ち着いた行動が出来るよう訓練に参加しましょう。

高田中学校防災拠点訓練 11月19日(日)



ハンドルを回してランタン点灯

避難者全員で寒いとき役立つエアーマットを膨らまし、手回し発電ランタンを灯しました。体育館の外では校舎の横にある給水塔の見学と、炊き出しおにぎりづくりを体験しました。



参加者自らおにぎりづくり

高田東小学校防災拠点訓練

12月3日(日)



高田東小学校に集合した参加者

避難先の高田東小学校には146人が参加しました。小学校から一番遠い”いっとき避難場所”のひまわり公園からは88才の方を含めた参加者が20分かけて移動して来ました。



段ボールベットの組み立て

避難先では全員でエアーマット、ランタンの他にテント

付き簡易トイレ、プライバシーを守るパーティション、段ボールのベット組み立てを見学、体験しました。

全体常会で応急手当講演 10月24日(火)



レジ袋による三角巾

高田消防出張所の川渕所長に出血、骨折、心停止した時の注意点と対処方法を実演を交えて指導して頂きました。

家庭防災員からはレジ袋による三角巾の付け方を教えていただきました。

川渕所長は「AEDは進化を続けており変化してきました。何度も参加する事が大切」と話されました。

地域防犯カメラの設置

高田小学校の通学路の中に、人家がなく、人通りも少ない場所があります。犯罪の未然防止を目的に2台の防犯カメラを設置する事にしました。



29年度高田町内会会員で各種受賞された方々

- | | | |
|---------------------|-------|-------------|
| ・港北区地域スポーツ功労者 | 高田町内会 | 山本 滋様 |
| ・港北ほくほくフェスタ 社会福祉功労者 | 高田町内会 | 相沢一夫様 古屋靖夫様 |
| ・港北区交通安全大会 | 高田町内会 | 青木悦也様 |



港北消防団夏季訓練会

町内会、各自治会の方にはいつもお世話になります。高田消防団が発足して70年が経ちました。現在の団員の状況ですが、1班団員数10名、2班14名です。活動状況では地域防災拠点訓練をはじめ、器具点検、救命防災指導、各訓練会等となっています。町内会との連携では各自治会での初期消火訓練が加わりました。住民の方々の防災減災意識が高くなっていると感じています。最近の火災状況では、毎年「放火」が一番ですが、高齢者世帯での火災、報知器の未設置で通報の遅れ等が目立ちます。

今回は港北消防団八分団6班の女性消防団について報告します。担当地域は六分団と同じ管内(高田、新吉田)での活動です。高田の団員は平埜部長、本多班長以下4名です。全団員が「救命救急指導者」の資格があり各訓練会、中学校等での講習や災害時の救護が主となっています。近年は女性消防団員の重要性から災害、火災時の現場支援も視野に入れて、小型ポンプでの消火訓練、エンジンカッター、チェーンソーの取扱い訓練も行っています。特に災害時には女性の目線での活動、支援が期待されています。

最後になりますが、火災現場、防災拠点訓練等で消防団として感じたことがあります。地域住民からの情報、協力、支援がとても有難く、現場でのスムーズな活動ができてきた事に感謝しております。これからも消防団活動に対して、皆様のご協力、ご指導を宜しくお願いいたします。

港北消防団第六分団1班 班長 田中光年



高田って どんどころ？ -14-

川崎市に隣接する天沼住宅

高田町北部は市境で、川崎市蟹ヶ谷から山本記念病院方面に向かって走る道路の右側は川崎市久末、左側が高田町になります。久末は一戸建てやマンション、団地が林立していますが、左側の高田町は大半が畑で、古くからの住宅が点在する程度です。



その中で、下田町寄りに昭和30年代開発された土地に世帯数約100戸の天沼住宅が存在しています。



バス停近くから望む富士山

バス通りは高台ですが住宅の中心部は低地にあります。天沼住宅入口バス停付近は、見晴らしが良く東を向くと絶好の日の出スポットで、近年多くの人が初日の出参りに見えます。少し左に目を移すと武蔵小杉の高層ビル群を見渡すことが出来ます。西を向くと、遠くに富士山が見え、特に冬場黄色に暮れゆく夕日と富士山は一見の価値があります。

編集後記 前回は70周年記念号をまとめました。通常4ページに対し4倍の16ページ。長期間保存の可能性も高く、誤字脱字には細心の注意を払いました。印刷されてきたときには達成感と虚脱感が同居。本号発行に向けて心機一転、天沼に住んでいるIさんと何枚も天沼の写真を撮りました。(A.S)